

【学会活動貢献賞】

(公社)日本地すべり学会 宮城大会幹事会 (団体)

●学会活動貢献賞

功績賞, 学会活動貢献賞など, 表彰委員会が表彰に値すると判断した個人または団体。

●受賞者:

(公社)日本地すべり学会宮城大会幹事会 (団体)

幹事長

瀬野孝浩 ((株)新東京ジオ・システム)

副幹事長

大澤宏明 ((株)復建技術コンサルタント)

井上宏 (日本工営(株))

大村泰 (奥山ボーリング(株))

工藤唯志 (日本工営(株))

渡辺修 ((同)水文企画)

熊井直也 (国土防災技術(株))

山川優樹 (東北大学)

高橋徹 (宮城県 土木部防災砂防課)

福原政一 (宮城県 土木部防災砂防課)

前田美津雄 (宮城県 水産林政部森林整備課)

蓬畑健一 (宮城県 農政部農村防災対策室)

菅原健志 (宮城県 農政部農村防災対策室)

幹事

甲斐美伎((株)復建技術コンサルタント), 宇次原雅之(日特建設(株)), 近藤敏光(国際航業(株)), 今井雄輝(応用地質(株)), 黒墨秀行((株)総合土木コンサルタンツ), 西俊憲(基礎地盤コンサルタンツ(株)), 鈴木真悟(奥山ボーリング(株)), 中臺直之((株)新東京ジオ・システム), 押見和義((株)復建技術コンサルタント), 池田浩二((株)東北開発コンサルタント), 梅村順(日本大学), 本山功(山形大学), 伊藤靖雄(大日本ダイヤコンサルタント(株)), 宍戸拓摩(川崎地質(株)), 根岸拓真(基礎地盤コンサルタンツ(株)), 小林基比古(日本工営(株)), 荻田茂(奥山ボーリング(株)), 石川恵司((株)日さく), 小林卓史(大日本ダイヤコンサルタント(株)), 石

川晴和((株)アドバンテクノロジー), 山本佑介((株)復建技術コンサルタント), 細谷健介(新和設計(株)), 高橋康平(国土防災技術(株))

●受賞理由:

2024年度の第63回研究発表会および現地見学会(宮城大会)の幹事会は, 2023年5月に幹事会の前身である準備会を立上げ, 8月には幹事会へと移行しており, 早い段階から組織的に準備を進めてきました。進行途上のプロジェクト管理が的確で, スケジュールの遅れはなく, 収支面のバランスも保ちつつ, 大会を成功させました。本研究発表会は発表希望者が極めて多く, 例年の3会場では収まらず, 4会場で2日間にわたっての開催となりました。また, 当日の参加受付には, 従来の紙資料による本人確認と参加プランの確認を改め, 初めてQRコードでの受付を導入しました。これにより一人当たりの受付時間が大幅に短縮され, 受付に渋滞が発生することもなく, 参加者のアンケート結果でもQRコードでの受付は高い評価を得ました。2022年度から実施されているハイブリッド形式での開催においても, 円滑な運営がなされました。なお, 宮城大会はインボイス制度が適用された初めての大会でしたが, 学会本部とともに参加費などを改定するなど事前に準備を進めたことで, 特に混乱は生じませんでした。また本大会の参加者数は, 研究発表会が604名, 意見交換会が445名, 現地見学会が113名(Aコース45名, Bコース29名, Cコース39名)であり, 研究発表会の発表件数は177件(口頭発表132件, ポスター発表45件)でした((公社)日本地すべり学会事業計画部, 2004)。

以上のように, QRコード等の新たな技術を大会の運営に導入したこと, そしてハイブリッド形式やインボイス制度など, 新たな課題への円滑な対応を実施したことを鑑み, 研究発表会プロジェクトにおける優れた計画立案とプロジェクト管理・運営に関して, (公社)日本地すべり学会宮城大会幹事会を2025年度の「学会活動貢献賞」に相応しいと評価しました。

参考文献:

(公社)日本地すべり学会事業計画部(2024): (公社)日本地すべり学会第63回研究発表会及び現地検討会の報告, 日本地すべり学会誌, Vol. 61, No. 6, pp. 260-276.

